

レクリエーション指導者のコロナ対策

特定非営利活動法人福島県レクリエーション協会

2020年 7月25日

2020年 8月 8日

- (1) こまめな手洗い、手指の消毒、マスクの着用、咳エチケットの厳守など、これまで言われてきた感染予防対策を確認しましょう。
- (2) 免疫力を保つ体調管理に気を付けましょう。
良質なたんぱく質を摂取する。十分な睡眠を確保する。無理なスケジュールをつくらない。次の日に疲れを残さない。体を冷やさない。など
- (3) 会場内の換気に気を付けましょう。
- (4) 自分自身の体調は毎日チェックして、
変調を感じたら「休む勇氣」を持ちましょう。
レクリエーション支援の依頼は自分一人で受けず、複数人で受け、自分がダウンしても依頼に穴をあけないようにしましょう。
- (5) 発熱などのかぜ症状がある場合には次の対応をしましょう。
『発熱などのかぜ症状がある場合は、仕事を休んでいただき、外出は控えてください。休んでいただくことはご本人のためにもなりますし、感染拡大の防止にもつながる大切な行動です。』（厚労省HPより）に従いましょう。
同居する家族に発熱等の症状が見られるときにも、可能な限り休んで、外出は控えましょう。
- (6) 次に該当する場合は、福島県レクリエーション協会に報告すると共に「帰国者・接触者相談センター」に相談しましょう。（厚労省・福島県HPより）
 - ①息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
 - ②重症化しやすい方（※）で、発熱や咳等の比較的軽い風邪の症状がある場合
※高齢者をはじめ、基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患 など）がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている方
 - ③上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合
※症状が4日以上続く場合は必ずご相談すること。
（症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談すること。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様）
連絡先：福島県「帰国者・接触者相談センター」
電話番号0120-567-747（受付：24時間／土日祝日含む）

(7) 次の行動は慎重に行いましょう。

① 県外への出張や旅行

* 県外への出張や旅行の後、最低1週間は現場に出ないようにするとともに、その間の行動歴を記録しましょう。

② 国外への旅行等

* 国外への旅行などの後、最低2週間は現場に出ないようにするとともに、その間の行動歴を記録しましょう。

③ 町内会、同窓会、サークル等の会合やイベントへの参加

④ 飲み会、食事会等への参加

* 全国で、飲み会や食事会での感染が相次いでいます。家族以外が参加する飲み会、食事会等への参加は、できる限り慎重に行いましょう。

⑤ 外国人が多く集まる場所や人ごみが予想される場所への外出

⑥ 10名以上が参加する会議等

* 開催が必要な場合は、ソーシャルディスタンスや換気を確保して行ないましょう。

⑦ 打合せ等のための訪問

* 可能な限り電話やメール、郵便などで行ないましょう。

⑧ 県外からの親戚や来客等の受入れ

* 親戚を含む県外からの来訪者と長時間接したときには、最低1週間は現場に出ないようにするとともに、その間の行動歴を記録しましょう。

* 県外からの講師の招聘やボランティアの受け入れは、当面の間見合わせましょう。

⑨ 不要不急に該当する研修会等への参加

⑩ その他不要不急の外出

※ 濃厚接触者となり得る同居のご家族にも、可能な限り同様の対応をしていただくよう協力をお願いしましょう。

(8) クラスターの発生を防止するため、次の3つの密を避けてください。

① 換気の悪い密室空間

* 活動の際には、窓や出入り口等を開けて行いましょう。

② 多数が集まる密集場所

* 会場の収容人数の50%以下になるように、参加者の制限や会場の選定をしましょう。

③ 間近で会話や発声する密接場所

※ ライブハウス、接待を伴う飲食店、カラオケ、屋内遊技場などには行かない。

* レクリエーション活動は、会話や発声を伴うことが多いので、活動時には、マスク、フェイスガード、マウスガードなどを着用して飛沫の拡散を防ぎましょう。

(9) 暑い日が続きます。熱中症対策も大切にしましょう。

- ①屋外で人と人との距離を取ることができる場合はマスクを外す。
- ②活動の区切りを活用し、できるだけこまめに水分補給の時間を取る。

(10) 政府提供の接触確認アプリ「COCOA」を導入しておきましょう

今後、明らかになる科学的見地に従い、本対策も変更になることがあります。

「新しい日常」に対応できる新しい「非日常」をつくり上げなければなりません。
一人ひとりが「心の元気づくり」の支援の仕方を考え、
レクリエーション指導者としての責任をもって、
安全・安心のもとに活動していきましょう。